

中国より

## 中国・韓国・台湾アロマセラピー事情

町田 久

中国の芳香療法は紀元前、春秋戦国時代から発祥し、清に至って呉師機が具体的な芳香療法の理論体系を形成しています。そもそも殷の時代の甲骨分に薫煙、艾蒸、香酒づくりが記載されています。また、周の時代には香囊を身につけたり、芳香薬を浴びる風俗習慣がありました。ですから大昔から芳香療法で疾病を予防したり、治療したり、消毒したりしてきた歴史が中国にはあります。現在の漢方薬にも丁香、木香、麝香など香りを持った薬が多数あります。

その中国福建省に3月に行ってきました。省都福州にある福建中医学院（Fujian University of Traditional Chinese Medicine）での毎年1回のアロマセラピー集中講義を行うためです。中医薬大学とは中国全土で各省に、また中央直轄地の北京、上海など18校があり、5年制の中医師のための国立の教育機関です。福建中医学院は学生数9,000名、教職員2,800名、鍼灸、骨傷、中西医学など9の学部から成る創立50周年を迎える大学です。留学生も台湾、シンガポール、マレーシア、フィリピン、ドイツなどから300名ほど在籍しています。

福建中医学院と正式に交流を始めて20年になります。その間アメリカ、イギリス、韓国、日本の大学教授、ドクターを福建中医学院にお連れして交流学会を開いたり、中国の先生を日本にお呼びしての講演会などの活動を続けてきました。また、私は名誉教授として毎年1回、福建中医学院での集中授業も続けております。7～8年前からはイギリス、スコットランドのアロマセラピーの先生に声をかけて一緒に授業に臨んでいます。いつもは鍼灸マッサージ科の学生60名の教室でしたが、今回は美容科の学生が

強く参加を希望して受講生は120名になり、教室から講堂に移りました。今回は4年生の授業で、集中講義は朝8時から昼休みを入れて17時までで3日間という日程で行いました（写真1）。

## 講義内容

私の話は日本の補完代替医療の内容から始めました。日本の長寿から中高年の自殺、20歳代の子宮内膜症、精子の異常、そして日本人の2人に1人がガンに罹り、3人に1人がガンで亡くなっている話等、日本の色々な側面を説明していきます。そして日本での補完代替医療は特にガンの免疫の治療から広がってきたことをお話しています。今までガンの治療は外科手術、放射線、抗ガン剤による治療によって、ガン細胞を直接叩いていこうとするものでしたが、それにより患者さん自身の免疫は落ちてしまい、ひどい副作用に見舞われ、吐き気、体重の減少、不眠、



写真1 福建中医学院での集中授業を受講する参加者の方々